

私は、これまでに二人の障害者の人に出会い、沢山のことを学び、経験しました。

一人目は、祖母です。

祖母は五十四歳の時、脳梗塞が原因で全身不随になりました。私は、小さい頃からベッドの上で寝たきりの祖母に話しかけたり、一緒に眠ったりしていました。祖母は、声が出ず、いつも顔の表情や口の動きで感情を表していました。私が話しかけた時、反応してくれるとすごく嬉しかったことを覚えています。家で介護されている時の祖母は、病院で入院している時より安心して落ち着いているように見えました。入院していると夜は家族が帰ってしまうので、さみしそうでした。

祖母は、いきなり体が動かなくなってしまったので今まで当たり前に出たことが出来なくなってしまうことにはかりしれない不安を感じていたと思います。そんな祖母のことを祖父や母は、とても丁寧に優しく介護していました。母は、家事や私たちのこともしながら、毎日祖母の様子を見に行っては、おむつを替えたりご飯を食べさせてあげたりしていました。話すことが出来なくても周りのみんなが話しかけていると自然に笑顔になっていく祖母を見て、コミュニケーションの大切さを学びました。言語障害があると「コミュニケーションがとりづらい」と思いがちですが、それは間違っていると思いました。

二人目は、小学一年生の時に仲良くなった友達です。

友達は、生まれつき体に力が入りにくく車イス生活をしていました。支援学級に入っていたので先生やクラスのみんなに助けてもらっているところもよく見かけました。友達は、私達と同じ内容の勉強を同じペースですることが難しいので、別室で自分に合ったペースで勉強をしていました。体のリハビリも兼ねて一緒にボール遊びをしたりダンスをしたりすることもありました。

クラスみんなは、友達を助けたいという思いが強いあまり、何でもしてあげてしまうので、友達は「自分で出来ることは自分です」「すぐに諦めたりせずに挑戦する」ということを大切にしていました。出来ないこともいくつかあったけれど何度も何度も挑戦して出来ることを増やしていました。生まれた時から車イス生活だけど、まだまだ慣れていることよりも慣れないことばかりで大変だと言っていました。辛くても毎日リハビリ教室に通っている姿を見て、自分たちが当たり前に出ていることは、すごいことで幸せなことだと気づきました。友達は、とても表情豊かで笑ったり泣いたり、話すことが大好きだったり甘えることが多かったり。そんな所も友達の良いところで素敵な個性だなと思いました。

二人を近くで支えてきた家族には、色々な感情があったと思います。とても元気だった祖母がいきなり倒れて、母はどんな気持ちだったのか聞いてみました。

初めは、ショックが強く現実を受け入れられなかったそうです。車イスでの生活すら想像できず、障害が残ることに大きな不安を感じていました。けれど、命に及ぶ病気だったので障害があっても、生きていてほしい。障害があっても一緒にいれることが幸せだと気づいた

そうです。十四年間の介護生活を経て、祖母は旅立ちましたが、家族みんなにすごく貴重な経験をさせてくれたと思います。友達の家族もきっとそれぞれが大切な経験をされてきたと思います。祖母のように、いきなり障害を持つ人もいれば、友達のように生まれつき体が不自由な人もいます。その他にも様々な障害を持っている人が世界中に沢山います。私は二人の姿をみて感じた思いや経験を忘れずに、障害者の方に寄りそえる優しい人でありたいと思います。